

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 2月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	4091600256		
法人名	有限会社 やすらぎ		
事業所名	グループホーム いちょうの杜やすらぎ		
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市三潅町高三潅 491- 2 (電 話) 0942- 54- 9000		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2- 2- 51		
訪問調査日	平成21年1月26日	評価確定日	平成21年3月13日

【情報提供票より】(21年 1月 16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13人, 非常勤 人, 常勤換算	12 人

(2)建物概要

建物形態	併設()単独()	(新築) / 改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有() 円) 無()		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または 1日当たり	1,100 円	

(4)利用者の概要(1月 16日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護 1	6 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 80.4 歳	最低 63 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	吉村医院、清水整形外科医院、松岡病院、福田病院、すみたクリニック、大石歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な新興住宅街の中に位置するホームであり、地域密着型の施設としての環境は抜群である。すぐ近くには小学校もあり、子供達が学校帰りに立ち寄ってくれたり、散歩の途中で会えば気軽に声をかけてくれたりするような関係づくりが出来ている。また、小学生だけではなく、地域の人たちとの交流を持つ機会も多く、ホームに地域の人を招いたり、逆に地域の行事に出て行ったりしながら、地域との連携も深めている。今後は利用者も地域住民として、さらに社会参加していく機会を持たなければならないとの思いを持って、それぞれの利用者の日々の暮らしを支えつつ、介護に当たっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の外部評価の改善点については、会議の時に話し合いを行い、改善できるところは改善するようにしていくようには心掛けているが、まだまだ手付かずの項目が多々見られる。今年度は改善計画書を作成して、優先順位の高いものから改善していく等、改善に向けて効率よく対応していけるよう取り組んでいくことが望まれる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価票を全員に書ける項目は記入してもらい、それを管理者が集約して、ミーティングの時に説明をした。また、皆がいつでも閲覧できるように、見えるところに掲示している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 地域の区長や民生委員、老人会会長等に、運営推進委員の参加メンバーとしての同意はもらっているが、なかなか都合がつかず、参加してもらうのが難しい。開設して2年経つが、まだ3回しか開催していない状況である。運営推進会議開催の年間計画等を立てて、参加メンバーに事前に配布しておくようにしてはどうだろうか。それでも参加が難しいということであれば、メンバーの見直しをすることも検討する等して、2ヶ月に1回の会議を定期的に行うことが求められる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法(運営への反映)(関連項目:外部8,9) 年2回程度、家族に集まってもらい、ホームに対する希望や要望を出してもらう機会としている。その時に出席した意見等は、ミーティングで話し合い、運営に反映させるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 新興住宅の中に位置しており、まだ自治会等の組織が確立していない地域ではあるが、近所で行われる祭りや小学校で行われる学習発表会等に参加したり、ホームで開催するコンサート等に地域の人たちに集まってもらったりしながら、徐々に地域との連携を深めているところである。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	受容」「傾聴」「共感」という3つの言葉を理念として掲げられているが、今のところ、地域密着型サービスの役割については盛り込まれていない。	○	実際には地域との連携は密に取れている状況のようだが、理念の中にも地域密着型サービスの意義を盛り込む事により、事業所としての取り組みが地域の人たちや利用者の家族等にも、さらにわかりやすいものとなるのではないだろうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングの時や普段の利用者との関わりの中において、話をするようにしている。開設して丸2年が過ぎ、全員で理念についての共有が出来るようになってきたところである。		
2.地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新興住宅地の中に位置しており、まだ自治会等の組織が確立していない地域ではあるが、近所で行われる祭りや小学校の学習発表会等に参加したり、ホームで開催するコンサート等に地域の人に集まってもらったりしながら、徐々に地域との連携を深めているところである。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を全職員に書ける項目は記入してもらい、それを管理者が集約して、ミーティングの時に説明した。また、皆がいつでも閲覧できるように、見えるところに掲示している。昨年の外部評価の改善点については、会議の時に話し合いを行い、改善できるところは改善するようにしていくようには心掛けているが、まだまだ手付かずの項目が多く見受けられる。	○	今年度の改善項目については、改善計画書を作成して、優先順位の高いものから改善していく等、改善に向けて効率よく対応していきけるように取り組んでいくことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の区長や民生委員、老人会会長等に、運営推進委員の参加メンバーとしての同意はもらっているが、なかなか都合がつかず、参加してもらうのが難しい。開設して2年経つが、まだ3回しか開催していない状況である。	○	運営推進会議開催の年間計画等を立てて、参加メンバーに対して事前に配布しておくようにしてはどうだろうか。それでも参加が難しいということであれば、メンバーの見直しをすることも検討する等して、2ヶ月に1回の会議を定期的に開催していくことが求められる。

グループホーム いちょうの杜やすらぎ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所協議会のグループホーム部会の事務局として活動しており、市との連携は密に取れている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一度、市が開催した研修に参加したことがあり、その時の資料を用いて、ホームで伝達研修を開催した。しかし、その後に採用になった職員に対しては、まだ研修を行っていない状況である。	○	定期的に勉強会等を開催して、さらに制度についての知識を深めていくことが望まれる。また、事業所協議会での勉強会等の開催も検討していくと良いのではないだろうか。
4.理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては、面会時に話をしたり、電話で報告をするようにしている。また、月に1回発行している「やすらぎだより」に、それぞれの利用者の日々の状況について個別にコメントを記載した上で、送付するようにしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回程度、家族に集まってもらい、ホームに対する希望や要望を出してもらう機会としている。その時に出た意見等は、ミーティングで話し合い、運営に反映させるようにしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職時には1ヶ月前には申し出てもらうようにしており、もしも離職等があった場合も、普段から全職員が密に情報交換を行い、誰でも対応出来る体制を取っているため、引継ぎで困ることはない。そのため、利用者のダメージもそれ程大きくならない。		

グループホーム いちょうの杜やすらぎ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、介護の経験ではなく、その人の性格や利用者との関わりが好きかどうかを重視しており、年齢や性別で採用から排除することはない。また、資格取得等、スキルアップを図っていくことを積極的に勧めるようにしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育については、ミーティングや日々の業務の中で実践に基づいた形で話しをするようにしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所協議会で月1回勉強会を開催しており、それに参加したり、法人内でも合同で勉強会を開催して、職員のスキルアップを図っている。外部研修にも積極的に参加している。しかし、現時点では職員それぞれのレベルに応じた教育を行うまでには至っていない。	○	職員のスキルや段階に応じて、研修を受講することが出来るように、事前に計画を立てた上で、取り組んでいくことが求められる。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内で立ち上げている、事業所協議会のグループホーム部会に参加しており、定期的に行われている勉強会等にも積極的に参加している。また、夏祭りやもちつきを他のホームと一緒に開催する等、ホーム間で相互訪問をする機会も持っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所をしてもらったり、事前に施設や病院に会いに行ったり、また、事業所に見学に来てもらう等して、不安の軽減に努めている。家族と相談しながら対応を行っている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に安心して過ごしてもらえるようなホームとして、家族のような関係を築いていけるように日々思っている。一方的にケアを提供するのではなく、お互い支え合うことが出来るような関わりを持っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションや会話の中から、その人の思いや意向を引き出すよう心がけている。意向の把握が困難な利用者については、家族にも話を聞きながら、本人の意向の把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングにおいて、利用者の状況を踏まえて、それぞれの方針を決めた上で作成するようにしている。作成した計画の内容については、口頭にて家族に説明を行っており、今のところ、全員から署名・捺印をもらってはいない。また、利用者や家族を交えての担当者会議は開催していない状況である。	○	どのような計画に基づき、どのようなケアを行っていくのかをきちんと説明した上、同意の署名・捺印はもらっておくようにすることが必要ではないだろうか。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回見直しを行い、新たな計画を作成している。また、状態に変化が見られた場合には、その都度見直しを行うようにはしているが、モニタリングの結果を記録に残していない。	○	記録として残っていないと、どのような評価を行った上で計画が変更したのかわからないので、今後はきちんと記録として残しておいてほしい。また、見直しを行う際には、職員をはじめ、利用者本人、家族とも話し合いを行いながら取り組んでいくことが求められる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人にとって、現状、どのようなことが必要なかを考えながら、馴染みの関係が壊れないようにする等、状況に合わせて柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて、元々のかかりつけ医への受診をいっている利用者もいれば、提携医療機関の受診を希望している利用者もいる。いずれも利用者と家族の意見を尊重した上で支援を行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りについての指針を作成しており、入居契約時に説明を行い、同意の記名・捺印ももらっている。実際にその状態になられた場合、かかりつけ医をはじめ、家族とも十分話し合いを行いながら連携を取りつつ、対応するようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。また記録類についても事務所内の鍵がついた棚に直しており、外から見えないように管理している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人の気分や体調、ペースに合わせて、臨機応変に対応するようにしている。決して無理強いはいないように心がけている。		

グループホーム いちよの杜やすらぎ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けを見てもらったり、食器洗いやテーブル拭き等、出来る範囲でそれぞれの能力を発揮してもらえている。食事の時間も、利用者と職員が同じテーブルで、コミュニケーションを図りながら、楽しく食事を取っている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や曜日等、利用者の希望に沿って入浴できるようにしている。時々入浴を拒否する利用者もいるが、いろんな職員で交替しながら声かけをする等して、うまく誘導するようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭き、花の水替え等、それぞれの利用者の特技や能力を活かして、出来ることは極力やってもらうように働きかけながら支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日は散歩に出掛けたり、近所の祠にお参りに出掛けたりしている。また、それぞれの希望を聞きながら、買い物やドライブ、コンサート等に出掛けて行く事もある。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけることはなく、自由に出入りできるようにしている。利用者の状態に合わせて、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1度消防署立会いの元で避難訓練を実施(夜間想定)したが、それから既に1年以上経過している状況である。	○	最低でも、年に2回は避難訓練を実施することが望まれる。また、職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域の人々や他の事業所等の協力が実際に得られるように、日頃から話し合いを行い、一緒に訓練を行う等の取り組みが必要ではないだろうか。

グループホーム いちょうの杜やすらぎ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	正確なカロリー計算までは行っていないが、調理師は配置しているので、バランスのよいメニューづくりが出来る。また食事摂取量や水分量の確保には十分気を配っており、必要に応じて摂取量を記録に残すようにしている。	○	カロリーの過不足や栄養の偏りが起こらないよう利用者一人ひとりの一日の栄養摂取量を把握することが必要となる。定期的に献立を栄養士に見てもらい、専門的な見地よりアドバイスを受けることが望まれる。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、畳を敷いたコーナーが設けられていたり、家具や装飾品も一般の家庭にあるようなもので揃えられており、それぞれが思い思いの場所で心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みの装飾品や使い慣れた家具、人によっては仏壇等も持ち込まれていたり、壁に写真を飾ったりしており、自宅にいる感覚で居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		